

教養コース ④ 国際社会学

混迷の中東を読み解く

第一回 中東はどんな所か

—地政学的、歴史的観点から

—講師 平井 文子 氏

| | |
|------|-------------------------------|
| 日 時 | 2020年8月29日(土) 10:00~12:00 |
| 場 所 | 鶴瀬公民館 第三集会室 |
| 講 師 | 平井 文子 氏 (アジア・アフリカ研究所員・元千葉大講師) |
| 受講者数 | 23人 |

第1回 中東はどんなところか

冒頭は、中東についての基礎知識の講義がありました。古代からいくつもの文明・国家・民族が生まれては消ながらその痕跡を残しながら、多様な歴史を幾重にも積み重ねてきた地域である。

例えば世界史に名を遺すエジプト、メソポタミア、シュ

メール、アッシリア、アルメニア、ペルシャ、ビザンチン、イスラームなどである。

中東は現代政治に影響力を持つ3大一神教、ユダヤ教・キリスト教、イスラーム教の発祥地である。イスラーム教徒が圧倒的な多数派を占めている。中でも7世紀に起こったイスラームの中心地で、イスラーム教徒が圧倒的な多数派を占めている社会。



講師 平井 文子 氏

1. 中東の地理的な範囲

中東 (Middle East) とは現在、東はアフガニスタンから西はモーリタニア、北はトルコ、南はソマリアに至る西アジア地域ときたアフリカにまたがる広大な地域。古代より西洋と

東洋をつなぐ位置から「東西文明の十字路」と呼ばれ、近代になりヨーロッパ側から見て近東ないし中近東と付けられ、現在では中東が定着している。中東には北アフリカも含まれる。

2. 中東の自然地理的特徴と地政学的位置（地図を参照）

基本的には雨の少ない乾燥及び半乾燥地帯。

近年、生活様式の変化などでかつてない水不足が深刻化、水をめぐって各国で揉めている。

中東の地政学的地位は石油産出量によってきめられてきた。20世紀のエネルギー源である石油をめぐって欧米の関心は強く政治、軍事的干渉を続けてきた。

第1次世界大戦をはじめ中東は「世界の火薬庫」と呼ばれるほど紛争の絶えない地域であった。

しかし、現在は石油の生産量は1位がアメリカ、2位がロシア、3位がカナダで低下している。

3. 中東に住む多様な民族とその言語及び主な居住地域国

- ① アラブ人（約3億4000万人）アラビア語が母語。パレスチナを含む22か国。アラブ連盟という機関に所属している。
- ② ペルシャ人（約8000万人）ペルシャ語、イラン・イスラム共和国
- ③ トルコ人（約8000万人）トルコ語、トルコ共和国
- ④ クルド人（約3000万人）クルド語、クルディスタンと呼ばれる山岳地帯に住んでいるが、イラク北部、シリア北西部に「自治区」ができているが先行きは不透明。
- ⑤ アマジク（ベルベル）人（約1000～1500万人）アマジク（ベルベル）語。北アフリカ先住民、主にモロッコ、アルジェリアに居住。アラブ人より一段低く見られている。
- ⑥ ユダヤ人（470万人）ヘブライ語（現代ヘブライ語）。イスラエル
アメリカには600万人居住。

4. 中東は三大一神教発祥の地

- ① イスラーム教
- ② キリスト教
- ③ ユダヤ教
- ④ ゴロアスター教（拝火教）

5. 中東社会のイスラーム的特徴

中東社会は13世紀間にわたるイスラーム文明の中で暮らしてきたイスラーム教徒（ムスリム）が圧倒的多数派を占める社会。イスラーム教徒として連帯感が国家の枠を超えて存在する。16億人で連帯意識が強い。

そもそもイスラームとは神への帰依という意味。

イスラームは単なる「心の宗教」ではなく一定の世界観、死生観に基づく、社会規範・生活規範・道徳規範である。現在も7世紀に書かれたコーランを読んでいる。アラビア半島で生まれ全域に広がり広大な中東イスラーム帝国を築いた。

帝国を支えたのは、経済的には遠隔地貿易がもたらす富で、知的、文化的にはギリシャ、インド、ペルシャの古典文化の摂取・継承・発展であったといえる。

世界史におけるイスラームの役割に注目。

6. イスラーム復興現象の意味するもの：西欧コンプレックスの払拭

- ① 栄光の歴史 17世紀の最大版図は、中東・アフリカ・欧州に拡大
- ② 屈辱の歴史は過去1世紀
- ③ 現在はイスラームの復興現象 一時宗教指導者が支持したこともあり、I Sについてはイスラームを傷つけた側面が大きかった。

7. 「アラブの春」が切り開いた新しい中東像：ポスト・イスラーム教時代

21世紀に入り、新しい民衆革命運動、民衆蜂起がおこっている。

2011年に始まった「アラブの春」の担い手は、イスラーム復興期に生まれ育った若い青年男女だった。

「アラブの春」はチュニジア、エジプト、リビア、イエメン、シリアで起き、前の4か国では政権を変えることができたが、その後、覆された。

シリアは内戦状態が続き、現在も多くの難民が故郷を追われている。

イスラームの良き伝統を引き継ぎ、はっきりと政経分離を掲げ「自由、社会的公正、尊厳、パン」という標語の中には従来、固執されてきたイスラーム主義の主張はない。

時代に見合った新しい価値観を掲げているのが特徴である。

とりわけ女性の人権という思想が男女を問わず青年たちの間に共有されていることが大きな進歩である。

実際、各国の運動にはかつてなく女性の参加が多くみられる。

「アラブの春」を経験した国の枠を超えて広がりを見せているがコロナ流行を機に強権的な政治が民衆運動を抑え込みにかかっている。

NHKのドキュメンタリー 「イスラームの挑戦」 (2017年) 紹介

質疑応答

- ・スンニ派とシーア派の2つにわかれた歴史的経緯と教義の違いについて
- ・イスラーム社会の女性の権利について